No Community, No Life.

studio-L

山崎亮

コミュニティデザインのフィールド

- 公園
- デパート
- 商店街
- 集落
- 郊外住宅
- 医療施設
- 福祉施設
- 美術館
- アート
- 食育
- 産業振興
- 総合計画
- 企業
- 行政
- 大学

◆東京都における人口増加時代

・高度経済成長期は、人口や市場や税収が拡大し、都民への公共サービスがどんどん充実させられた。

→道路、鉄道、公共施設など、主にハード整備。

・ところが、東京が便利になればなるほど、都民はお客様のように振る舞うようになってきた。

→都庁への苦情や要望や陳情の増加、道路や公園の掃除依頼、保健意識の低下、公教育への要求増大など。

・都庁はよく耐えた。なるべく要望に応えようとしてきた。

→それができたのは人口や市場や税収が拡大する時代だったから。

◆東京都における人口停滞と超高齢社会

・2040年について考えると、東京都は急速な勢いで高齢化を進める一方、若い人の流入は加速度的に少なくなっていく。

→日本を代表する超高齢都市へ。

・世界の先進国は緩やかに高齢化。東京のやり方をじっと見ている。

→これまでの医療、介護、福祉、薬事では「もぐらたたき」状態で到底間に合わない。予算が足りない。

→地域包括ケアシステムは、まだ具体的なモデルが見えない。ケース、グループからコミュニティへ。

◆保健？予防？健康づくり？

・医療、介護、福祉、薬事が必要なわけではない。そのお世話になる前の状態が重要。

→保健、予防医療、健康づくり。コミュニティヘルス。ここに本気で取り組まなければ、「お世話になる人」がどんどん増えるばかり。

→しかし、保健、予防医療、健康づくりと聞いて、本気になれる若い人たちは多いだろうか？

→とはいえ、この人達こそ、2040年の高齢者である。複合障害を抱える可能性が高い人たちである。

・「いいことやってるんだろうけど、つまらない」。

◆2040年に高齢者になる人たち

・保健分野に美しさが必要。美しい、楽しい、美味しい、カッコいい、かわいい、オシャレという要素が必要。

→ただし、表面的では持続性がない。美しさによって生まれた共感を利用して、人と人とのつながりを構築していくことが重要。

→2040年の高齢者は演歌を歌うか？盆栽を育てるか？グループホームでぬりえをするか？

・東京都が便利なまちになり、誰にも頼らず、あたかも一人で生きていけるかのような幻想を抱くようになったが、2040年には一人で生きていくなんてのは無理だったんだということを理解する人たちが大量に存在するはず。

◆美しさに集い、つながり、健康に

・美しいこと、楽しいこと、美味しいことに人は集う。共感する。つながる。主体的に関わる。連続的に関わる。

→楽しいことをしていたら、人とつながり、健康になれた、というのが理想的。

・孤独は喫煙より体に悪い。お見舞いに来てくれる人の数で寿命が変わる。町内会の役員は健康に良い。作り笑いでも寿命は2年延びる。予防医学が明らかに。

→「つながり」が健康寿命を延ばすことに寄与する。人とつながり、一緒に活動する機会が都内各所にあることが重要。その活動が美しいことが重要。

『友だちの数で寿命はきまる』
石川善樹さん

- 副題：
  人との「つながり」が最高の健康法
- 「つながり」が少ないと死亡率が２倍
- 孤独は、喫煙より身体に悪い
- お見舞いに来てくれる人の数で、余命が変わる
- 町内会の役員は、健康にいい
- 同僚が、あなたの寿命を左右する
- 男性は息子の嫁に介護されると長生き
- 一方、女性は旦那に介護されると長生き
- 作り笑いでも、寿命は２年延びる

◆東京都の活動人口を高める

・定住人口、交流人口から、活動人口という考え方へ。

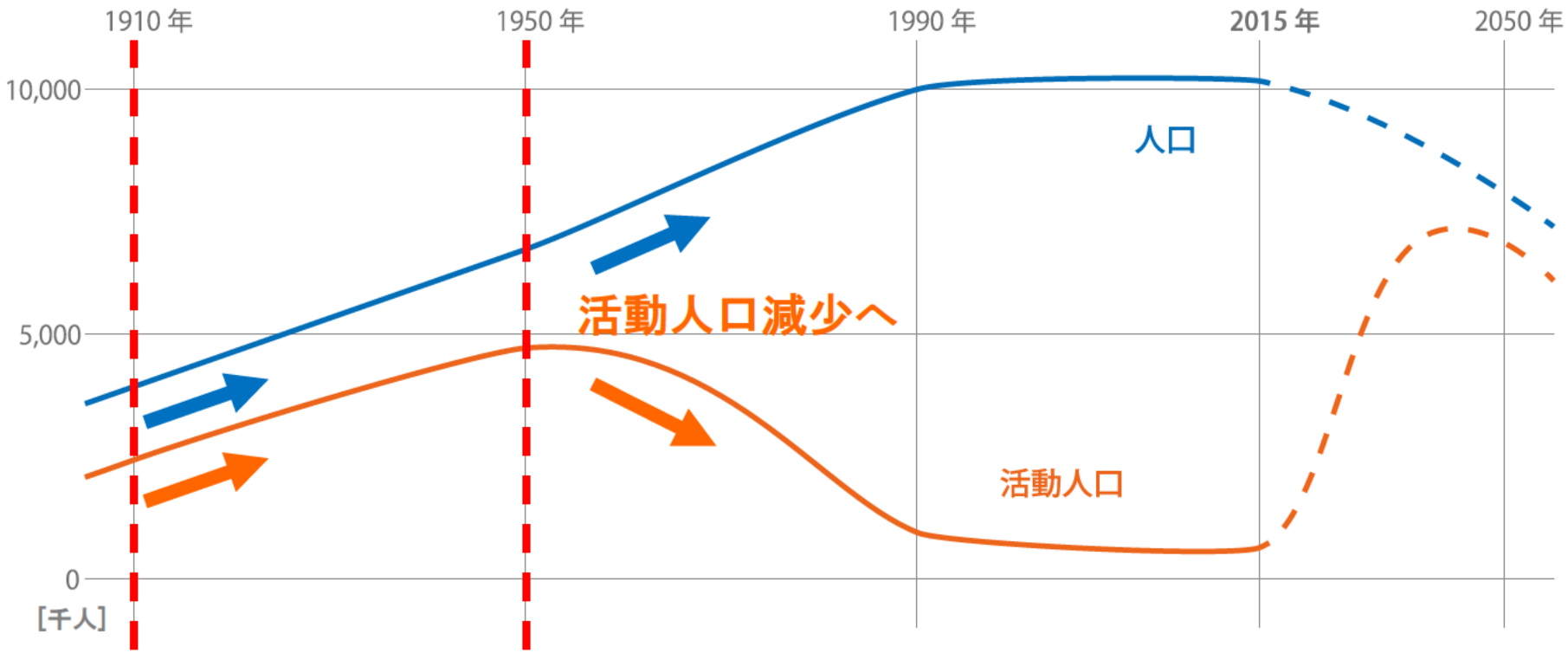
→活動人口比率の高いまちこそ、健康的なまちであり、魅力的なまちである。

・2020年のオリンピックは、そのための大きなきっかけになる。美しい、楽しい、カッコいいを表面的に終わらせるのではなく、都民が参加し、その後のまちづくりに関わり続けるきっかけを生み出すべき。

→それが、前回とは違うタイプのレガシーになるはず。

・「大住民参加時代」へ。あらゆる施策を住民参加で検討する。それによってつながりをつくる。

定住人口と活動人口の関係



連・講・結・座の時代
住民同士で
助け合った時代

個人主義
産業構造の変化
若者の都市への流出

定住人口が減る
→交流人口を増やそう！
⇒活動人口も増やそう！

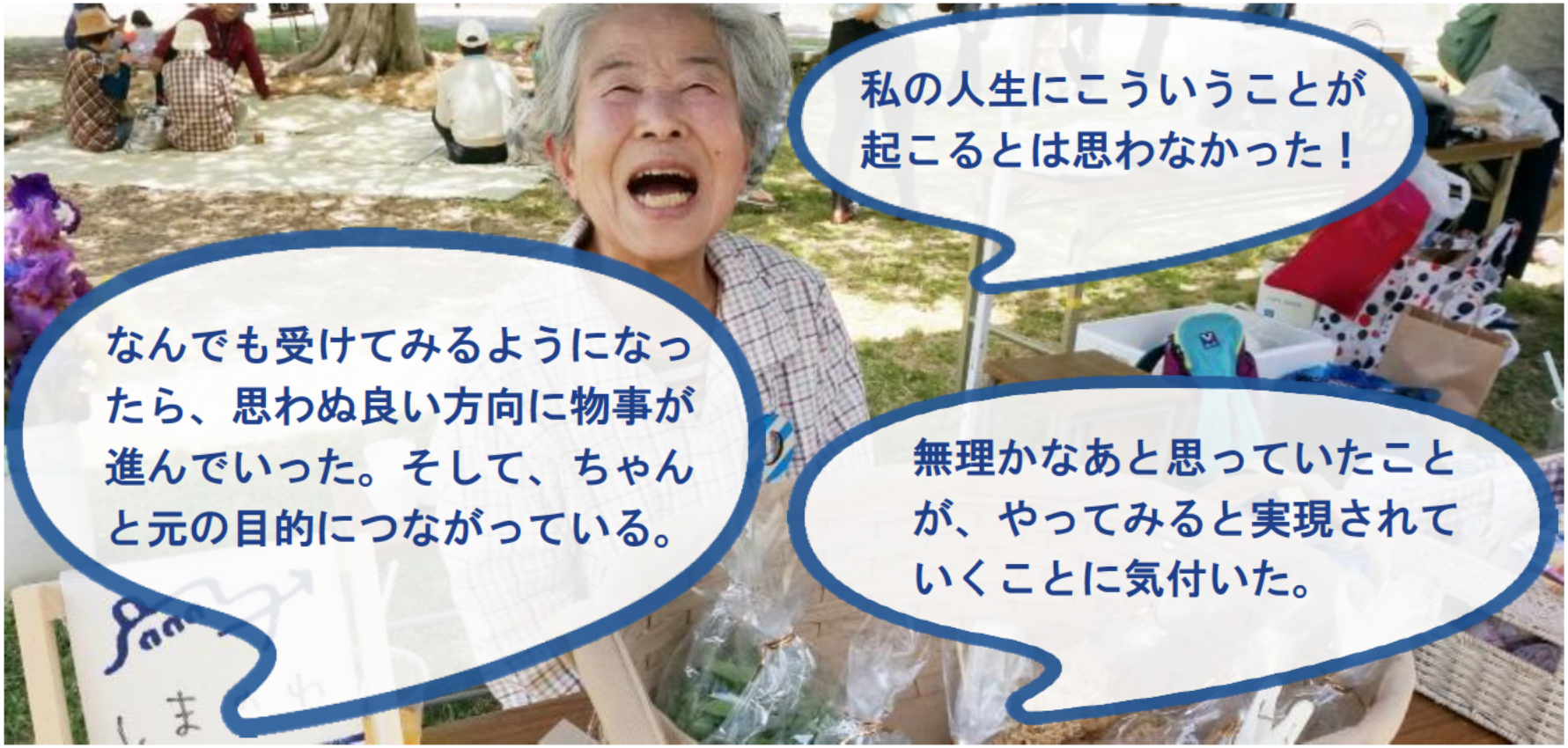
◆ファシリテーターを増やす

・2020年に向けて都民参加事業を倍増させていく。興味のあるテーマを見つけて活動する都民を増やす。

→都民の参加を促し、参加した人たち同士をつなげる専門家の活躍も必須。美しさの重要性を理解したファシリテーターの存在。

→コミュニティデザイナー、ファシリテーター、ワークショップデザイナーなど、「つなぎ屋」たちを胡散臭い人たちだと思わないようにすること。

・東京都が優秀なファシリテーターを惹きつけるまちになり、都民のなかの活動人口比率が高まり、健康な人が増え、まちが美しく楽しくかっこ良くなること。

◆2040年代＝80歳代

地域住民の声